

新しい庁舎のシンボルは雑木林である

地域全体で雑木林の固まりをつくる
新庁舎だけでなく、隣接している市民ホールや都営住宅の敷地、公園などを見直し全体で雑木林の固まりをつくる。ケヤキ、コナラ、クヌギ、エゴノキやヤマボウシなどによる雑木林は、周辺の境川や丘陵部の崖線の自然と一緒に、武蔵野らしい緑のネットワークをつくる。

庁舎は雑木林で覆われている—新しい庁舎のシンボル
建物が高いことや特異な表現によって、市庁舎（コミュニティ）のシンボルとするのではなく、これからの時代のテーマとして環境の表現自体をシンボルとしたい。雑木林と環境共生の建築がシンボルとなる。

周辺環境に調和したスケール
高さを抑えることによって、周辺の景観との親和性を図ることができる。建物は、地上6〜7層で、25m程度の高さである。都営住宅（約40m）は高すぎると考え、市民ホールのフライ部分の高さに近いものにした。

中層の建物の安全性と機能性
高層ではなくバランスのよい中層の建物は、適切な制震装置を施すことで高い安全性が得られる。また災害時にはエレベーターに頼らないで機能を発揮することができる。



雑木林の固まりが新しいシンボルをつくりだす



周辺環境に調和したスケール



街と庁舎は一体である—立体的な街としての庁舎

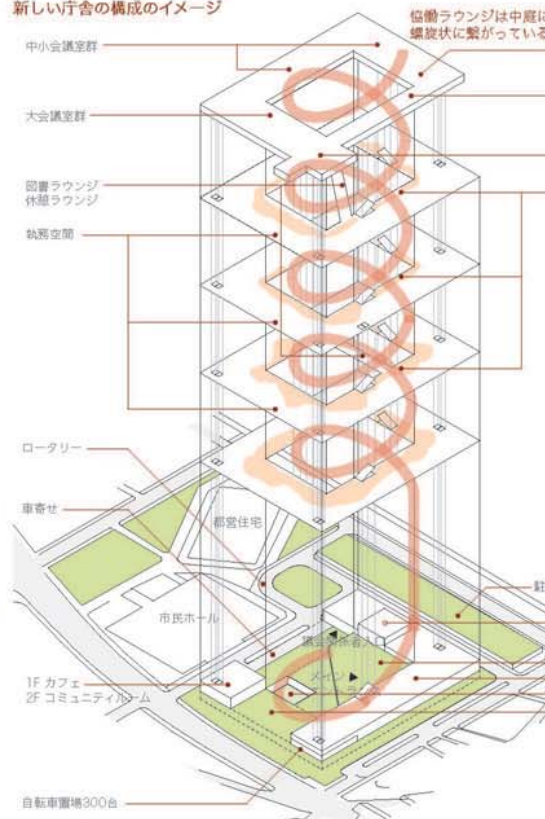
街≒市民プラザ≒市民フォーラム≒協働ラウンジ≒市民ギャラリー

町田駅前通りの歩道と連続した「市民プラザ」
都市の憩いの広場としていつでも気楽に立ち寄ることができる。自転車置場も面している。カフェもここにあり、様々なイベント（バザールやパフォーマンスやお祭り）が行われ、街に賑わいを与える。

「市民プラザ」と一体になった内部の広場「市民フォーラム」
「市民フォーラム」は市民が直接関係する活動と一緒に集めた空間で、新しい庁舎のポリシーを最もよく表している。アクセスしやすい低層部（1階、2階、地階）に立体的に様々な活動の場が設けられている。「市民プラザ」と一体的に使うこともできる。
庁舎全体の25%にあたる約9000㎡が割り当てられる。

身近なものとしての議場空間、市長の空間
議場は2階に設けられ、一方は「市民フォーラム」面している。閉会中は多目的な小ホールとして活用され、「市民フォーラム」と一体的な使い方ができる
市長室も2階に設けられる。

新しい庁舎の構成のイメージ



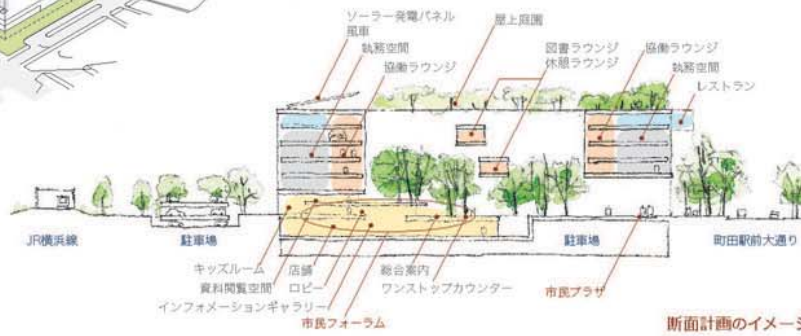
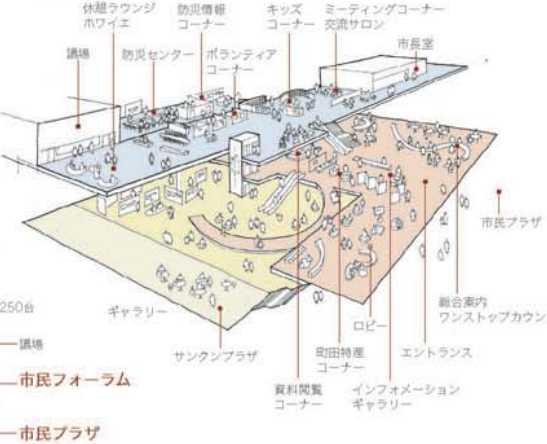
執務空間の中庭側に配された市民との協働空間「協働ラウンジ」
様々なコミュニケーションのかたちに対応できるフレキシブルな空間である。
最上階（7階）や屋上も様々な人が行き交う空間である
大小の会議室群、レストラン、「市民ギャラリー」、屋上庭園が設けられる。

全体を巡っていくことができる
「市民フォーラム」を起点とし、各階の「協働ラウンジ」を巡って、最上階の「市民ギャラリー」、屋上庭園に到達できるように、螺旋状に空間が繋がっている。中庭に面して全ての活動的なアクティビティ空間が配置されている。様々なアクティビティは全て中庭を介して感じられる。

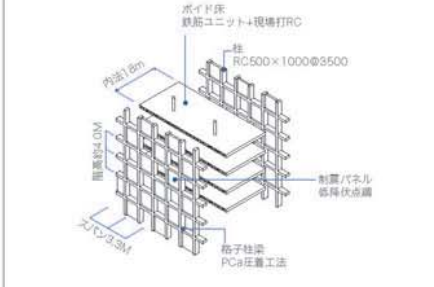
街と連続した市民プラザのイメージ



市民フォーラムのイメージ

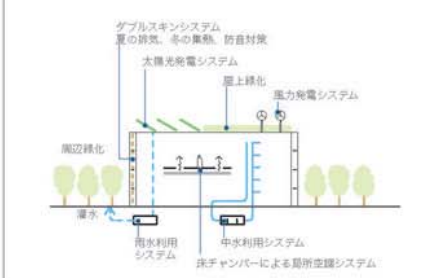


合理的で地震に強い構造システム



専状の空間に相応しい柔い構造システム
鉄筋ユニットのプレハブ化、コンクリートのPCa化などにより高品質を確保
制震装置（低降伏点鋼）を適切に配置

パッシブな考えを導入した環境共生型の庁舎



総合的な防災視点が生まれます

